

水魔・各地で^{たけ}猛^{くる}り狂う ～ 昭和28年水害新聞記事スクラップ ～

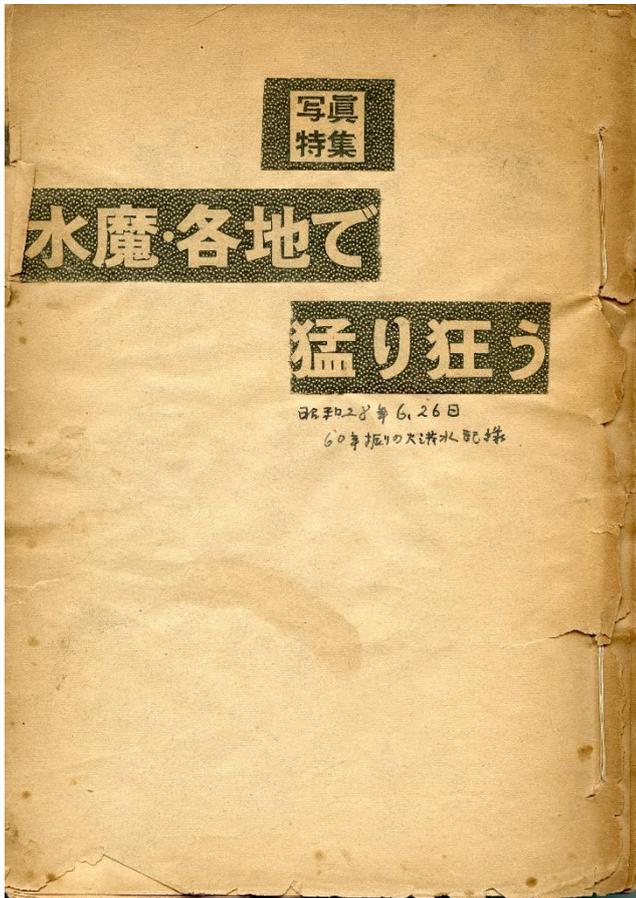
会期: 令和5年6月2日(金)～7月2日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

昭和28年(1953)6月25日から6月29日にかけて、九州地方北部(福岡県・佐賀県・熊本県・大分県)を中心に、集中豪雨による水害が発生しました。福岡県では、死者259名、行方不明27名、建物被害225,925戸、被害総額793億円に及びました。久留米市の降水量は、25日に317mm、28日までの4日間で657mmと、平年の4～5倍を記録しました。この水害は現在でも「28水」と呼ばれ、人々の記憶に残る^{みぞう}未曾有の大水害として語り継がれています。

本市では、令和5年1月16日付けで、28水の水害に関する新聞記事を取めた「昭和28年水害新聞記事スクラップ」の寄贈を受けました。

●昭和28年水害新聞記事スクラップ(表紙)



スクラップは1冊(縦25.4cm、横18.0cm)全38ページで、内容は久留米市や筑後川に関する記事を中心にしつつ、^{むんががわ}遠賀川や^{むろみがわ}室見川、佐賀市や大分県日田市に関するものもあります。九州・山口地方の「各県の被害状況」の統計表もありますが、ほとんどは堤防の決壊や浸水などの被害を大きな写真とともに伝える記事です。なお、紙名や発行日は貼付されていませんが、一部の記事に「西日本新聞」の文字がみえます。

表題の「水魔・各地で猛り狂う」は、新聞記事の見出しから切り取ったものです。また表紙には「昭和28年6月26日 60年振りの大洪水記録」とペン書きされています。スクラップの作成者にとっての先の「大洪水」がいつの水害を指すのかははっきりとはしませんが、これより以前では明治22年(1889)7月と大正10年(1921)6月の水害が知られ、28水とあわせて筑後川3大水害とされることもあります。

●記事の見出しやキャプション(一部)

「水魔、むざんの足跡」

「水に浮ぶ久留米市(二十六日午後六時)」

「鹿児島本線の^{だいてつきょう}大鉄橋を洗う筑後川の激流(久留米側より撮影)」

「筑後川堤防の決壊でドロ海に沈む久留米市外宮ノ陣付近」

「筑後川の^{だくりゅう}濁流に^{おしなが}押し流された流木の群(福岡県浮羽郡田主丸町)」

「はらんする筑後川」

「久留米市に逆流」

「全市水浸しの久留米市」

「狂乱の『水魔』なおおらず」